

県内景気動向調査

株式会社清水地域経済研究センター

要旨

〈今期（2025年10月時）〉

業況：売上は減少したが、販売単価が上昇、仕入単価が低下し業況全般は改善

- ・今期の業況全般 DI（「良い」から「悪い」を差引きし指数化）は、前回（2025年7月時調査）に比べ +5.7^{ポイント}の 2.1 と改善し、先行き（2026年1月時予想）も今期比+5.6^{ポイント}の 7.7 と改善の見通し。
- ・売上 DI は前回比▲2.8^{ポイント}の 0.7 と減少したが、先行きは今期比+4.9^{ポイント}の 4.2 と増加の見通し。
- ・採算 DI は前回比▲4.6^{ポイント}の ▲14.5 と悪化したが、先行きは今期比+2.6^{ポイント}の ▲11.9 と改善の見通し。
- ・販売単価 DI は前回比+1.5^{ポイント}の 25.4 と上昇したが、先行きは今期比▲9.5^{ポイント}の 15.9 と低下の見通し。
- ・仕入単価 DI は前回比▲2.3^{ポイント}の 40.7 と低下し、先行きも今期比▲7.8^{ポイント}の 32.9 と低下の見通し。
- ・引き合い DI は前回比+7.8^{ポイント}の ▲0.7 と増加し、先行きは今期比±0.0^{ポイント}の ▲0.7 と同水準の見通し。
- ・在庫 DI は前回比+2.8^{ポイント}の 2.8 と増加したが、先行きは今期比▲2.1^{ポイント}の ▲0.7 と減少の見通し。
- ・今期は、売上は減少したものの、販売単価の上昇および仕入れ単価の低下により業況全般は改善した。先行きは、売上の増加および仕入単価の低下が見込まれ、業況全般は改善する見通しとなった。

資金繰り・設備・雇用：資金繰り、設備不足、人手不足いずれも悪化

- ・資金繰り DI は前回比▲0.5^{ポイント}の ▲9.0 と悪化したが、先行きは今期比+0.6^{ポイント}の ▲8.4 と改善の見通し。
- ・設備 DI は前回比▲1.3^{ポイント}の ▲4.8 と悪化したが、先行きは今期比+0.6^{ポイント}の ▲4.2 と改善の見通し。
- ・雇用において、人員数 DI は前回比▲7.2^{ポイント}の ▲32.4 と悪化し、先行きも今期比▲0.9^{ポイント}の ▲33.3 と悪化の見通しで、人手不足が続く。労働時間 DI は、前回比▲4.2^{ポイント}の 0.7 と減少したが、先行きは今期比+2.1^{ポイント}の 2.8 と増加の見通し。賃金 DI は前回比▲10.2^{ポイント}の 23.4 と減少したが、先行きは今期比+7.2^{ポイント}の 30.6 と増加の見通し。

経営上の課題と対応方針

- ・経営上の課題としては、「人手不足・技術者不足」が 50.3%と最も多く、主な対応方針は「新規採用・獲得」が 40.0%であった。2 番目に多かったのが「採算悪化」の 38.6%であり、主な対応方針は「収益力確保」が 22.1%であった。3 番目に多かったのが「売上減少・停滞」の 37.9%であり、主な対応方針は「新規取引先開拓」が 29.7%であった。

生成 AI 利用の取り組み状況

- ・生成 AI 利用の取り組み状況について、最も多かったものは「利用する予定はない」が 35.2%であった。2 番目に多かったものは「既に利用している」が 21.4%であった。

生成 AI の利用用途

- ・生成 AI の利用用途について、最も多かったものは、「情報の収集、リサーチ」が 28.3%であった。2 番目に多かったものは「文書やメール等の作成、文章の要約、校正、添削」が 27.7%であった。

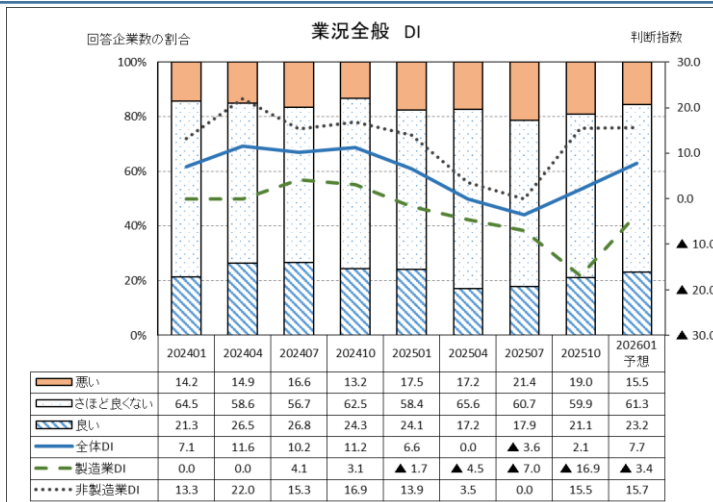
業況全般

業況全般 DI は前回に比べ改善し、先行きも改善する見通し

今期の業況全般 DI における全体 DI は、2.1（前回比+5.7^{ポイント}）と改善した。

製造業 DI は▲16.9（同▲9.9^{ポイント}）と悪化したが、非製造業 DI は 15.5（同+15.5^{ポイント}）と改善した。先行きでは、全体 DI は 7.7（今期比+5.6^{ポイント}）と改善する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲3.4（同+13.5^{ポイント}）と改善し、非製造業 DI の先行きも 15.7（同+0.2^{ポイント}）と改善する見通しである。

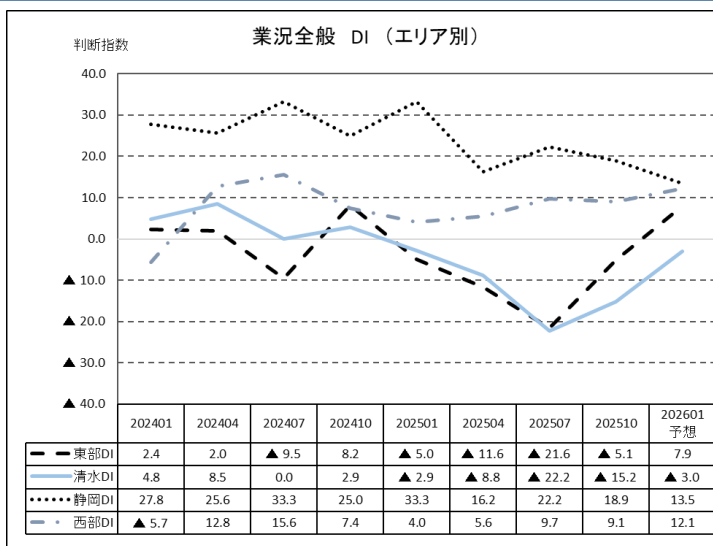


業況全般（エリア別）

エリア別の業況全般 DI は、東部エリア、清水エリアが改善したが、静岡エリア、西部エリアは悪化した。先行きは、東部エリア、清水エリア、西部エリアが改善し、静岡エリアは悪化する見通し

今期のエリア別の業況全般 DI は、東部 DI が▲5.1（前回比+16.5^{ポイント}）、清水 DI が▲15.2（同+7.0^{ポイント}）と改善したが、静岡 DI が 18.9（同▲3.3^{ポイント}）、西部 DI が 9.1（同▲0.6^{ポイント}）と悪化した。

また、先行きについては、東部エリア、清水エリア、西部エリアは改善する見通しであるが、静岡エリアは悪化する見通しである。



売上

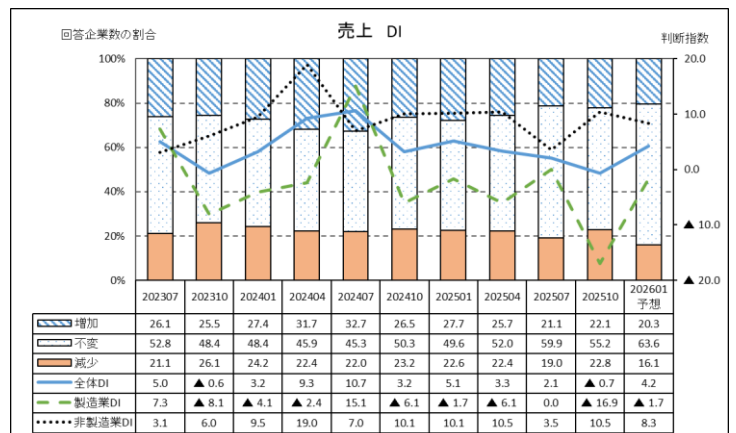
売上 DI は前回に比べ減少したが、先行きは増加の見通し

今期の売上 DI における全体 DI は、▲0.7（前回比▲2.8^{ポイント}）と減少した。

製造業 DI は▲16.9（同▲16.9^{ポイント}）と減少したが、非製造業 DI は 10.5（同+7.0^{ポイント}）と増加した。

先行きでは、全体 DI は 4.2（今期比+4.9^{ポイント}）と増加する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲1.7（同+15.2^{ポイント}）と増加する見通しであるが、非製造業 DI の先行きは 8.3（同▲2.2^{ポイント}）と減少する見通しである。



採算

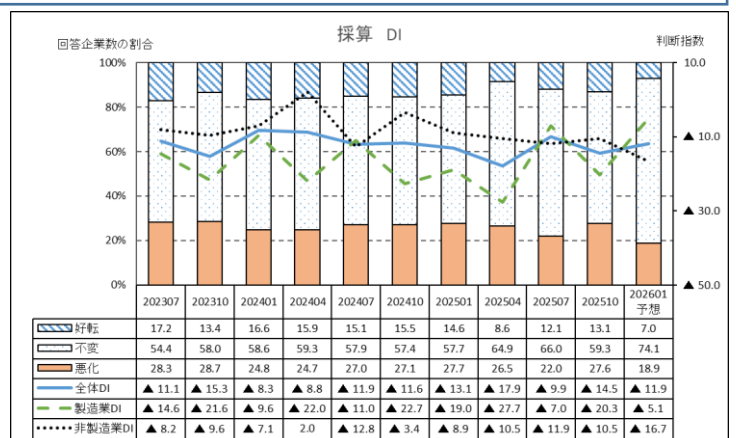
採算 DI は前回に比べ悪化したが、先行きは改善の見通し

今期の採算 DI における全体 DI は、▲14.5（前回比▲4.6^{ポイント}）と悪化した。

製造業 DI は▲20.3（同▲13.3^{ポイント}）と悪化したが、非製造業 DI は▲10.5（同+1.4^{ポイント}）と改善した。

先行きでは、全体 DI は▲11.9（今期比+2.6^{ポイント}）と改善する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲5.1（同+15.2^{ポイント}）と改善する見通しであるが、非製造業 DI の先行きは▲16.7（同▲6.2^{ポイント}）と悪化する見通しである。



販売単価

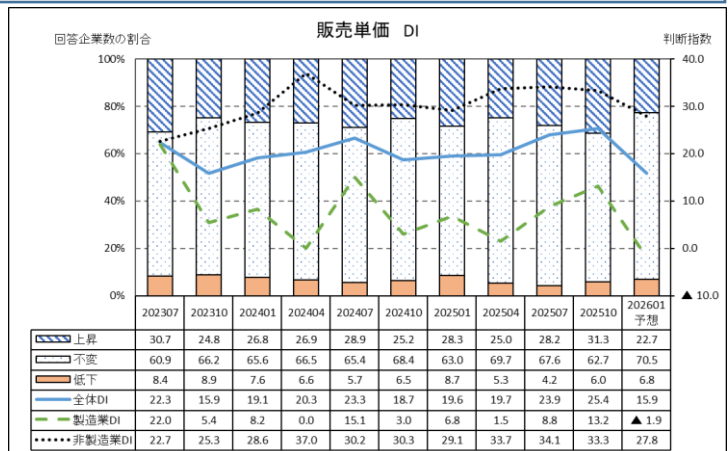
販売単価 DI は前回に比べ上昇したが、先行きは低下の見通し

今期の販売単価 DI における全体 DI は、25.4（前回比+1.5^{ポイント}）と上昇した。

製造業 DI は 13.2（同+4.4^{ポイント}）と上昇し、非製造業 DI は 33.3（同▲0.8^{ポイント}）と低下した。

先行きでは、全体 DI は 15.9（今期比▲9.5^{ポイント}）と低下する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲1.9（同▲15.1^{ポイント}）と低下する見通しであり、非製造業 DI の先行きも 27.8（同▲5.5^{ポイント}）と低下する見通しである。



仕入単価

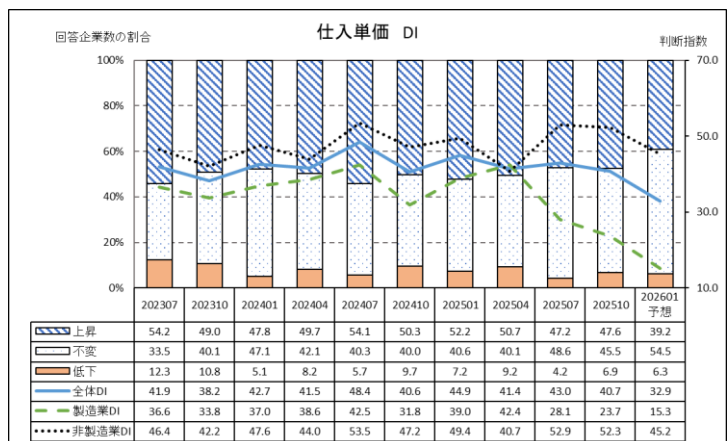
仕入単価 DI は前回に比べ低下し、先行きも低下の見通し

今期の仕入単価 DI における全体 DI は、40.7（前回比▲2.3^{ポイント}）と低下した。

製造業 DI は 23.7（同▲4.4^{ポイント}）と低下し、非製造業 DI も 52.3（同▲0.6^{ポイント}）と低下した。

先行きでは、全体 DI は 32.9（今期比▲7.8^{ポイント}）と低下する見通しである。

製造業 DI の先行きは 15.3（同▲8.4^{ポイント}）と低下する見通しであり、非製造業 DI は 45.2（同▲7.1^{ポイント}）と低下する見通しである。



引き合い

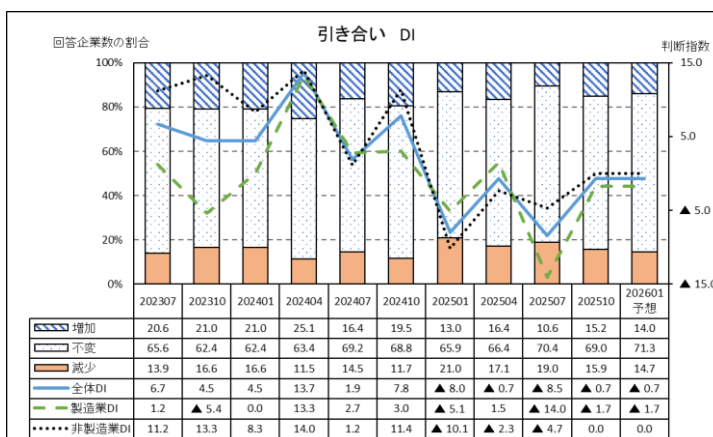
引き合い DI は前回に比べ増加し、先行きは同水準の見通し

今期の引き合い DI における全体 DI は、▲0.7（前回比+7.8^{ポイント}）と増加した。

製造業 DI は▲1.7（同+12.3^{ポイント}）と増加し、非製造業 DI も 0.0（同+4.7^{ポイント}）と増加した。

先行きでは、全体 DI は▲0.7（今期比±0.0^{ポイント}）と同水準の見通しである。

製造業 DI の先行きは▲1.7（同±0.0^{ポイント}）と同水準の見通しであり、非製造業 DI の先行きも 0.0（同±0.0^{ポイント}）と同水準の見通しである。



在庫

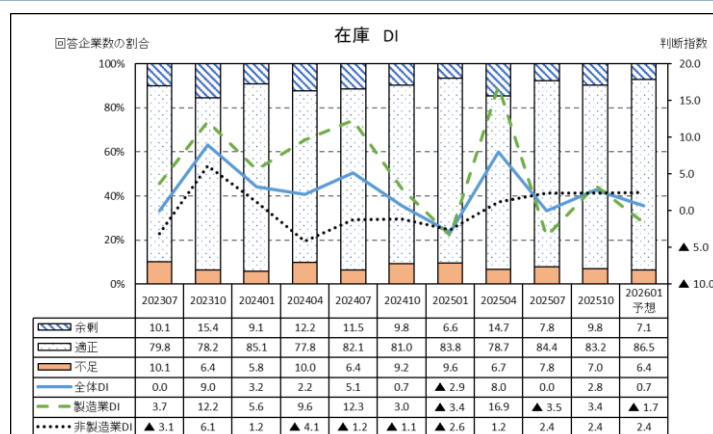
在庫 DI は前回に比べ増加したが、先行きは減少の見通し

今期の在庫 DI における全体 DI は、2.8（前回比+2.8^{ポイント}）と増加した。

製造業 DI は 3.4（同+6.9^{ポイント}）と増加し、非製造業 DI は 2.4（同±0.0^{ポイント}）と同水準であった。

先行きでは、全体 DI は 0.7（今期比▲2.1^{ポイント}）と減少する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲1.7（同▲5.1^{ポイント}）と減少する見通しであるが、非製造業 DI の先行きは 2.4（同±0.0^{ポイント}）と同水準の見通しである。



資金繰り

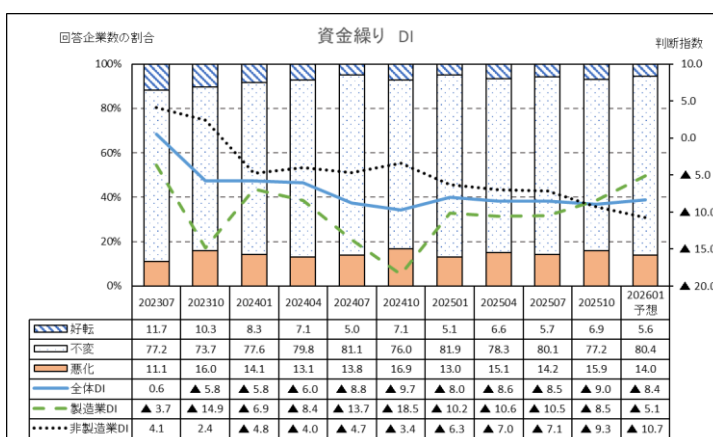
資金繰り DI は前回に比べ悪化したが、先行きは改善の見通し

今期の資金繰り DI における全体 DI は、▲9.0（前回比▲0.5^{ポイント}）と悪化した。

製造業 DI は▲8.5（同+2.0^{ポイント}）と改善したが、非製造業 DI は▲9.3（同▲2.2^{ポイント}）と悪化した。

先行きでは、全体 DI は▲8.4（今期比+0.6^{ポイント}）と改善する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲5.1（同+3.4^{ポイント}）と改善する見通しであるが、非製造業 DI の先行きは▲10.7（同▲1.4^{ポイント}）と悪化する見通しである。



設備

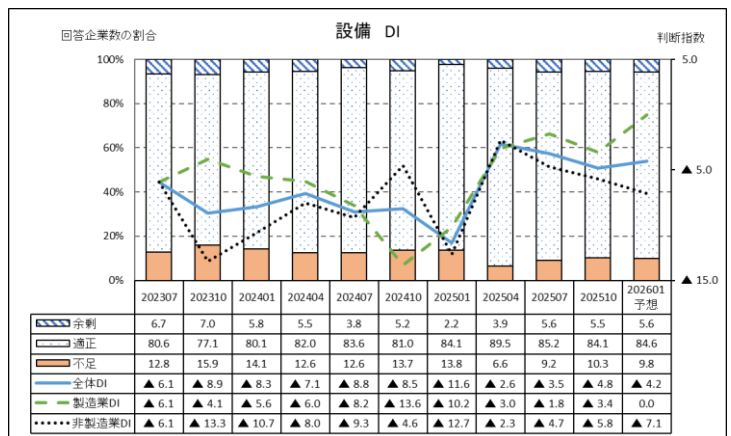
設備 DI は前回に比べ悪化した、先行きは改善の見通し

今期の設備 DI における全体 DI は、▲4.8（前回比▲1.3^{ポイント}）と悪化した。

製造業 DI は▲3.4（同▲1.6^{ポイント}）と悪化し、非製造業 DI も▲5.8（同▲1.1^{ポイント}）と悪化した。

先行きでは、全体 DI は▲4.2（今期比+0.6^{ポイント}）と改善する見通しである。

製造業 DI の先行きは 0.0（同+3.4^{ポイント}）と改善するが、非製造業 DI の先行きは▲7.1（同▲1.3^{ポイント}）と悪化する見通しである。

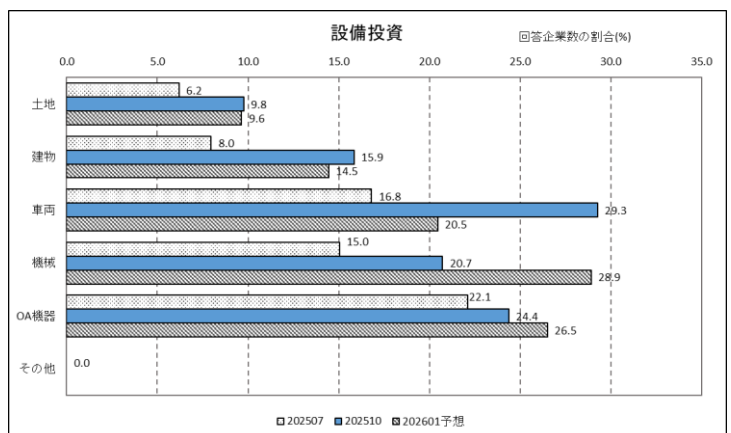


設備投資（複数回答可）

設備投資については、先行きも機械、OA 機器、車両が主流

今期の設備投資の状況は、車両 29.3%、OA 機器 24.4%、機械 20.7%、建物 15.9%、土地 9.8%であった。

先行きでは、機械 28.9%、OA 機器 26.5%、車両 20.5%、建物 14.5%、土地 9.6%に設備投資する見通しである。



投資意欲

「変わらず」が 48.4%、「やや積極的」が 27.9%、「やや消極的」が 11.5%と増加し、「消極的」が 8.2%、「積極的」が 4.1%と減少した

今期の投資意欲の状況は、

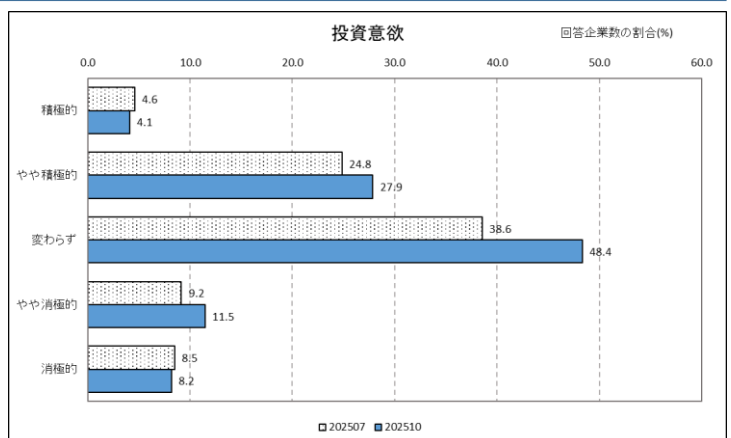
「積極的」4.1%（前回比▲0.5^{ポイント}）、

「やや積極的」27.9%（同+3.1^{ポイント}）、

「変わらず」48.4%（同+9.8^{ポイント}）、

「やや消極的」11.5%（同+2.3^{ポイント}）、

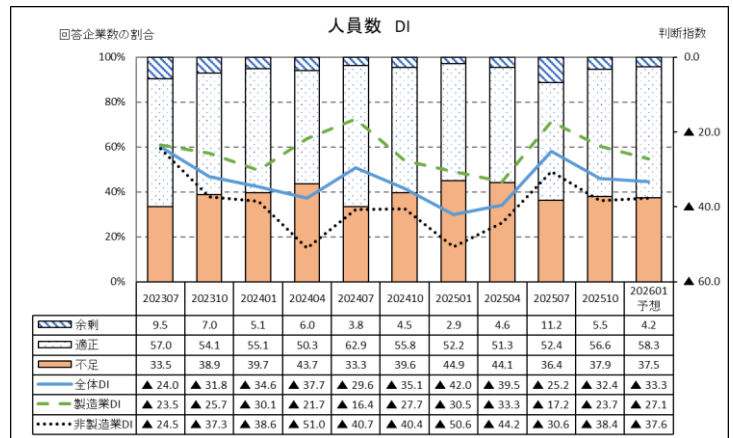
「消極的」8.2%（同▲0.3^{ポイント}）であった。



人員数

人員数 DI は前回に比べ悪化し、先行きも悪化の見通し

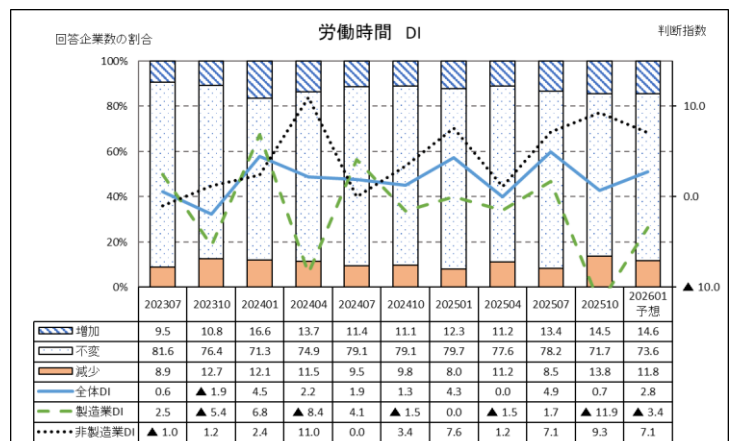
今期の人員数 DI における全体 DI は、▲32.4（前回比▲7.2^{ポイント}）と悪化した。製造業 DI は▲23.7（同▲6.5^{ポイント}）と悪化し、非製造業 DI も▲38.4（同▲7.8^{ポイント}）と悪化し、人手不足は続く。先行きでは、全体 DI は▲33.3（今期比▲0.9^{ポイント}）と悪化し、人手不足が続く見通しである。製造業 DI の先行きは▲27.1（同▲3.4^{ポイント}）と悪化する見通しであるが、非製造業 DI の先行きは▲37.6（同+0.8^{ポイント}）と改善する見通しである。



労働時間

労働時間 DI は前回に比べ減少したが、先行きは増加の見通し

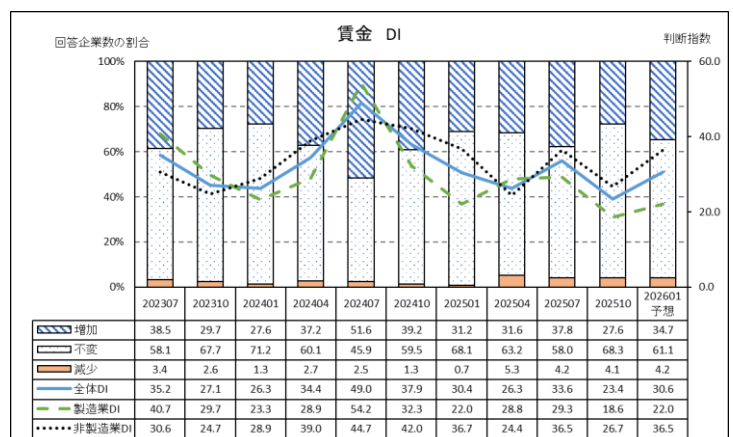
今期の労働時間 DI における全体 DI は、0.7（前回比▲4.2^{ポイント}）と減少した。製造業 DI は▲11.9（同▲13.6）と減少したが、非製造業 DI は 9.3（同+2.2^{ポイント}）と増加した。先行きでは、全体 DI は 2.8（今期比+2.1^{ポイント}）と増加する見通しである。製造業 DI の先行きは▲3.4（同+8.5^{ポイント}）と増加する見通しであるが、非製造業 DI の先行きは 7.1（同▲2.2^{ポイント}）と減少する見通しである。



賃金

賃金 DI は前回に比べ減少したが、先行きは増加の見通し

今期の賃金 DI における全体 DI は、23.4（前回比▲10.2^{ポイント}）と減少した。製造業 DI は 18.6（同▲10.7^{ポイント}）と減少し、非製造業 DI も 26.7（同▲9.8^{ポイント}）と減少した。先行きでは、全体 DI は 30.6（今期比+7.2^{ポイント}）と増加する見通しである。製造業 DI の先行きは 22.0（同+3.4^{ポイント}）と増加する見通しであり、非製造業 DI の先行きも 36.5（同+9.8^{ポイント}）と増加する見通しである。



経営上の課題（２つまで選択） 課題に対する対応方針（複数回答可）

経営上の課題として最も多かったものは「人手不足・技術者不足」が50.3%であった。その課題に対する対応方針として「新規採用・獲得」が40.0%、「人材育成・教育の充実」が27.6%、「女性の業務範囲の拡大」が14.5%、「外国人の採用」が11.0%であった。

２番目に多かったものは「採算悪化」が38.6%であり、対応方針として「収益力確保」が22.1%、「受注単価の底上げ」が21.4%、「人件費削減・経費削減」が13.8%、「仕入原価節減」が9.7%であった。

「売上減少・停滞」は37.9%であり、対応方針として「新規取引先開拓」が29.7%、「販売強化のための増員」が8.3%、「新規事業の取組み・M&A（買）の検討」が6.2%であった。

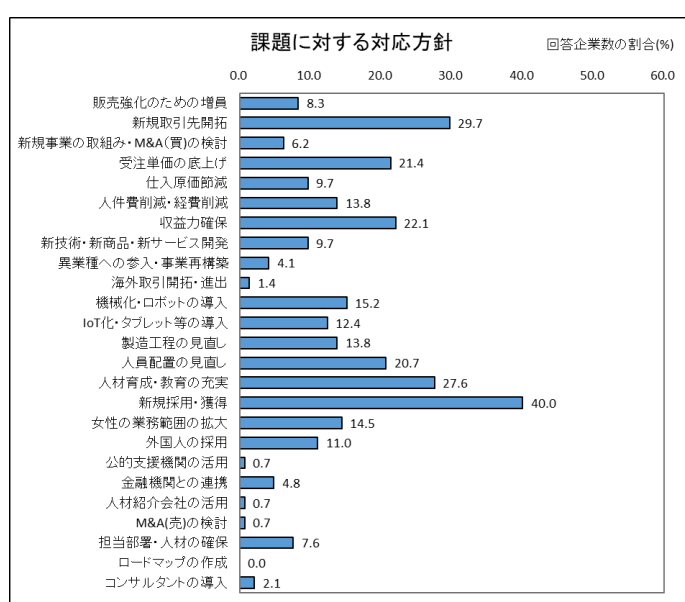
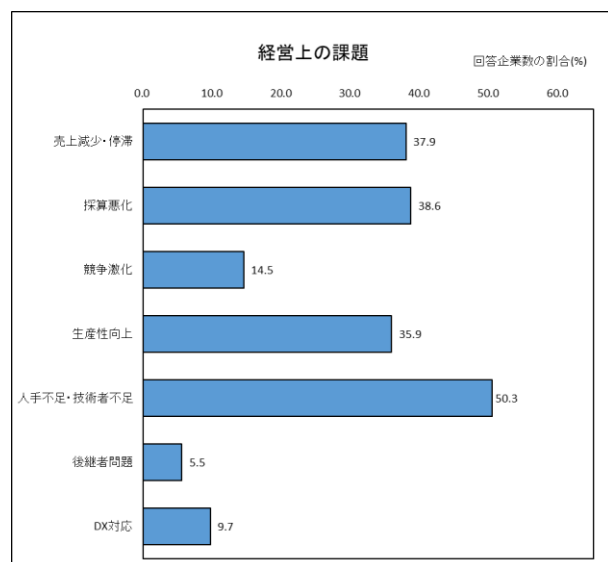
「生産性向上」は35.9%であり、対応方針として「人員配置の見直し」が20.7%、「機械化・ロボットの導入」が15.2%、「製造工程の見直し」が13.8%、「IoT化・タブレット等の導入」が12.4%であった。

「競争激化」は14.5%であり、対応方針として「新技術・新商品・新サービス開発」が9.7%、「異業種への参入・事業再構築」が4.1%、「海外取引開拓・進出」が1.4%であった。

「DX対応」は9.7%であり、対応方針として「担当部署・人材の確保」が7.6%、「コンサルタントの導入」が2.1%であった。

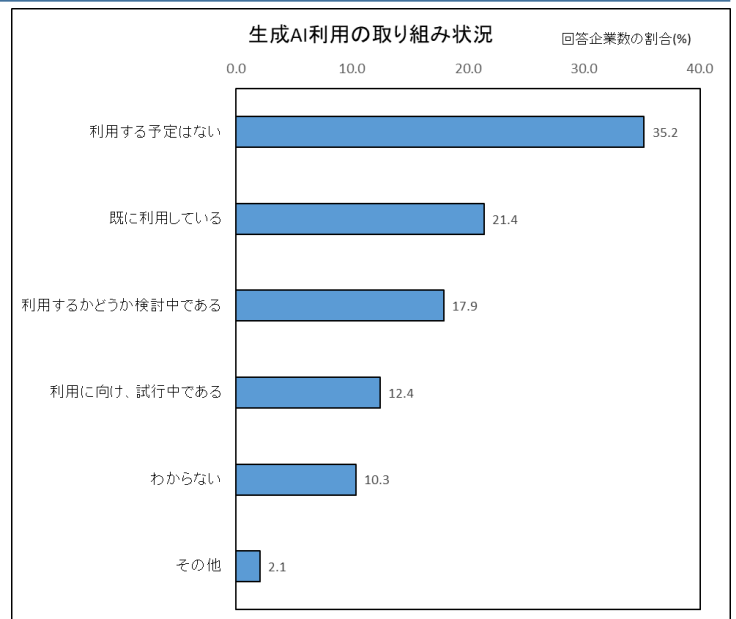
「後継者問題」は5.5%であり、対応方針として「金融機関との連携」が4.8%、「公的支援機関の活用」が0.7%であった。

「人材紹介会社の活用」「M&A（売）の検討」がいずれも0.7%であった。



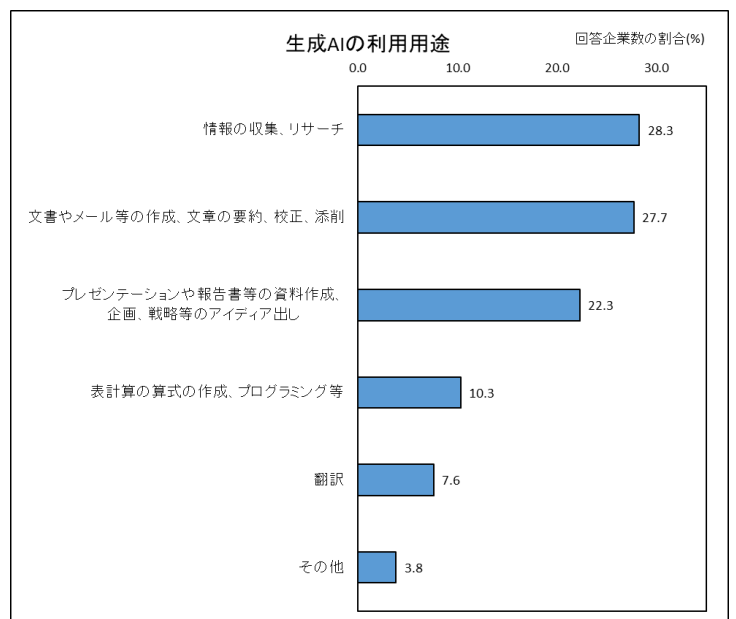
生成 AI 利用の取り組み状況

生成 AI 利用の取り組み状況について、最も多かったものは「利用する予定はない」が 35.2% であった。2 番目に多かったものは「既に利用している」が 21.4% であった。次いで「利用するかどうか検討中である」が 17.9%、「利用に向け、試行中である」が 12.4%、「わからない」が 10.3%、「その他」が 2.1% であった。



生成 AI の利用用途（複数回答可）

生成 AI の利用用途について、最も多かったものは、「情報の収集、リサーチ」が 28.3% であった。2 番目に多かったものは「文書やメール等の作成、文章の要約、校正、添削」が 27.7% であった。以下、「プレゼンテーションや報告書等の資料作成、企画、戦略等のアイデア出し」が 22.3%、「表計算の算式の作成、プログラミング等」が 10.3%、「翻訳」が 7.6%、「その他」が 3.8% であった。



特徴的なコメント

業種	業況全般（現状）	業況全般（先行き）
飲食料品製造業	この夏は、清涼飲料水の売上が思ったほど増えなかった 暑すぎてソフトクリームや氷、水、お茶に流れたと思われる	忘年会シーズンに合わせて新商品を開発中
木材・木製品製造業	大手取引先の減産が続いている	大手取引先の生産が通常に戻る見込み
金属製品製造業	景気動向は変わらず、日産やアメリカ関税を含め自動車関連、油圧機器関連の動向は非常に不透明	顧客からの価格低減圧力や、材料メーカーからの価格上昇圧力がある
一般機械器具製造業	米国トランプ政権の関税政策は現時点では影響は出ていない	今後、トランプ政権の関税政策の影響が取引先企業の対米輸出減少等に繋がるのか不透明
自動車・同部品製造業	新規開発案件が急激に減少し低調な業績、この状況は今後も当面続く見通し	生産している部品が搭載されている車両がモデルチェンジとなる為、売上減少を予測
その他製造業	仕入価格高騰、価格転嫁追いつかず	今後も仕入れ価格が高騰する可能性があるため、価格交渉に努めていく
建設業	静岡県中部地区を中心に景況感、引き合い共にやや弱含みの状況にある	一時的供給力不足感が減退し、一部受注競争が厳しくなってくる兆しを感じる
不動産業	引き合いはあるものの、建築費の高騰等、ユーザーのマインドを冷やす要素が多いため、受注決定までに時間がかかっている	明るい材料が少ないため、買い控えがさらに進む可能性がある
卸・小売業	物価高が消費者の想定を超えているので、いつ急に売上減がやってくるか懸念している	天候が良くなって消費者数は戻りつつあるが、物価高の影響で高単価な物や高耐久な物は売れない 仕入や経費の値上がり等もあって先行きは不透明
物流・運輸業	気温が高すぎて商品販売量が低下	10月に入って、荷動きが悪い
医療・福祉	近隣同業種との競合また季節的要因による売上の安定化を図ることが難しい 人件費を含む一般販管費の上昇トレンドによる利益率の悪化を懸念	最低賃金上昇や人材の紹介料等人材確保にかかる費用増加を懸念しており、諸経費の一層の価格上昇リスクを注視している
その他サービス業	原材料の値上げばかりで採算がとれない	米の値上げ、時給のアップによる経費の増大により値上げを計画しているが、それによる客数減を懸念している

業種	雇用（現状）	雇用（先行き）
飲食料品製造業	11月の最低賃金引き上げにより、賃金増加	技能実習生6名が12月に来日し、1月より就業予定
パルプ・紙・紙加工品製造業	7月に昇給を実施 採用は、特に3交替で難しい状況が継続している	現在の状況が継続かと想定している
金属製品製造業	拡大要素が乏しく、現状維持で推移	将来を担う人材の確保が急務
自動車・同部品製造業	人手不足は相変わらず	賃金上昇は避けられない
その他製造業	ワーカークラスは採用出来ているが、技術職の採用が出来ず、稼働に悪影響あり	向こう3ヶ月では大きく変化なし
建設業	採用は新卒・中途共に大苦戦で希望人員の確保に苦労している	最低賃金見直しの影響もあり賃金は上昇傾向
卸・小売業	全国的な賃金上昇に伴い、賃金UPを行っている 採用は厳しい	チャンスを見て、女性の営業員を営業サポートから始めて育てたい
物流・運輸業	最低賃金への対応も含む賃金UPを進めたい	若手の運転手を採用したいが、日曜日の出勤がネックとなっている
物流・運輸業	採用活動を行ったが、退職者を補うための活動のみ	賃金と共に社会保険料の負担増の影響が厳しくなりそう
医療・福祉	業種的に人材確保が困難 今後も同様な状況が続いていくと考えられ、人材確保の諸経費増加が懸念	障がい者雇用を進めている為、後は委託契約せず自前で行えるような体制の構築、人員増員等検討中
その他サービス業	最低賃金の伸びに合わせて賃金を上げている 人件費を抑制するため、退職者の補充を抑えている	賃金の上昇傾向は続くと考え、これに対応していく

業種	生成 A I の用途 「その他」 コメント
その他製造業	機械設備に導入予定
卸・小売業	規定規則の見直しに使用
卸・小売業	幹部が研修等に参加し、知識習得を図っている
物流・運輸業	車両運行の際の最適ルート検索
医療・福祉	医療DXへの取り組みとして、AI問診や診療記録の「AI医療音声認識」や「AIカルテ記載支援」などを検討している
その他サービス業	A I 教習を実施予定

調査の概要

調査時点：2025 年 10 月 3 日～10 月 17 日

調査方法：郵送による記名アンケート方式
及び W e b による回答方式

対象企業：清水銀行取引先企業 220 社

回答企業：145 社

回答率 ： 65.9%

コード番号	業種名	先数
11	飲食料品製造業	10
12	木材・木製品製造業	6
13	パルプ・紙・紙加工品製造業	8
14	化学工業	2
15	金属製品製造業	8
16	一般機械器具製造業	9
17	自動車・同部品製造業	12
18	その他製造業	4
21	建設業	21
22	不動産業	7
31	卸・小売業	15
41	物流・運輸業	15
51	医療・福祉	15
52	その他サービス業	13
	計	145

株式会社清水地域経済研究センター

発行日 2025 年 10 月 31 日

〒424-0941 静岡県静岡市清水区富士見町 2 番 1 号

Tel.054-355-5510 Fax.054-353-6011 E-mail smz-center@smz-kenkyu.jp 杉山